

令和4年度
事業報告書

公益財団法人防府市文化振興財団

令和4年度 公益財団法人防府市文化振興財団事業報告書

I 事業総括

防府市文化振興財団は、真に豊かさの実感できる地域社会の形成と進展に寄与することを目的として、「豊かな心の育みと文化の薫りにあふれるまちづくり」を推進する防府市における文化活動の一層の活性化を図り、市民のニーズに応える多様な事業を展開しています。

令和4年度は、第4期指定管理の2年目を迎えましたが、防府市公会堂、防府市地域交流センター、防府市青少年科学館、防府市視聴覚ライブラリー及び防府市立防府図書館の5施設の指定管理者として、これまでの実績を検証しながら安心安全を基本に、より利用しやすい施設運営に努めるとともに、新型コロナウイルス感染症防止対策を取りながら、それぞれの施設を拠点とした魅力あふれる多彩な事業を企画運営することにより、多くの来場者をお迎えし、防府市の文化振興を図ってまいりました。

II 事業概要

公益財団法人として定款の目的にかなった事業を展開するとともに、「輝き!ほうふプラン」に沿った文化・芸術活動の推進、並びに図書館運営事業による生涯学習を推進し、それぞれの施設の特徴を活かしながら連携して適正な運営に取り組みました。

また、収益事業については、感染防止対策を取りながら公益目的事業の一層の充実を図るための財源確保や、利用者のサービス向上につながるよう、収入の確保に努めました。

1 文化の創造・発信及び文化活動の支援事業

(1) 音楽鑑賞事業（資料1頁～2頁参照）

本年度は、クラシック、ポップス等の各種事業13事業22公演を行い、合計で8,480人の方にご参加いただきました。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、事業の延期や中止せざるを得ない状況もありましたが、国や県、市の指針の下に徹底した感染予防対策を施し、コロナ禍の中での事業展開を行いました。

- ① クラシック
 - ア 主催事業
 - a 防府音楽祭

第22回目を迎えた防府音楽祭は、街の活性化を図るとともに、クラシック音楽をより多くの市民に親しんでいただくことを目指して、令和5年の年明け1月6日から4日間連日で開催しました。

昨年はコロナ禍のため動画配信のみとなった初日の「街角コンサート」は、2年ぶりに一般の来場者を迎えて、デザインプラザ HOFU、アスピラート市民スペース、天神ピアの市内3カ所で開催することが叶い、来場者から高い評価を得ました。

2日目の「プロムナードコンサート」では一般公募の約350人の来場者に、管楽器や弦楽器の音色を無料で楽しんでいただきました。

また、「管・打楽器特別公開クリニック」では、防府市内外から集まった小学生から大人まで56人に、フルート、オーボエ、打楽器などのトップアーティストによる直接指導という貴重な体験をしていただくことができました。

「わくわく夢の響演コンサート」は、当音楽祭に何度もご出演いただいた故すぎやまこういち氏のヒット曲やディズニーの名曲などを楽しんでいただきました。

最終日の「ファイナルコンサート」は、防府アスピラート合唱団による合唱曲「くちびるに歌を」が披露され、ラストは防府音楽祭管弦楽団によるベートーヴェン作曲の交響曲第6番「田園」の圧巻の演奏で締めくくりました。

この音楽祭は市民参加型として定着しており、地元の防府アスピラート児童合唱団“Fanfare”（ファンファーレ）、アスピラート合唱団、防府吹奏楽団も出演したほか、プロ演奏では防府市出身の田村昭博氏（ヴァイオリン）と吉田篤氏（ヴィオラ）も出演しました。

当音楽祭は、例年（独）日本芸術文化振興基金から高い評価を受けており、その助成を受けて開催しています。

b 石田組ツアー2022/2023 硬派弦楽アンサンブル「石田組」

ヴァイオリニスト石田泰尚氏率いる音楽家総勢8人が集い、ロックからクラシックに至るあらゆるジャンルの曲において高度な演奏技術を披露しました。防府市出身のヴァイオリニスト田村昭博氏もメンバーのひとりとして公演を盛り上げました。

イ 共催事業

a 元気やまぐち創造プロジェクト

～管弦楽アンサンブルと和太鼓のコラボレーション～

コロナ禍で低迷する音楽文化を盛り立てようと、前年度に引き続き、山口県内

の8会場が連携し著名な演奏家による公演を開催しました。

防府天満宮では、和太鼓の世界的奏者林英哲氏を始め、長原幸太氏（ヴァイオリン）、防府市出身の田中雅弘氏（チェロ）や田村昭博氏（ヴァイオリン）などによる奉納演奏を、防府市、防府商工会議所と連携して開催しました。

また、三友サルビアホールにおいては、ピアニストの田村響氏、林英哲氏などによる華麗なる演奏が披露され来場者から拍手喝采を浴びました。

b 日中国交正常化50周年・王丹来日20周年記念 二胡コンサート～平和～

防府市をはじめ県内で活動している二胡奏者の王丹氏と中国の伝統楽器揚琴、中国琵琶奏者による華やかなコンサートを開催しました。防府アスピラート児童合唱団“Fanfare”（ファンファーレ）も賛助出演し美しい歌声を披露しました。

c 防府ロータリークラブ創立65周年記念事業 高嶋ちさ子&加羽沢美濃 カジュアルクラシック meets ゆかいな音楽会

高嶋さんの素晴らしい演奏と軽快なトークによって、満員の会場で来場者は音楽の楽しさを体感することが出来ました。

② ポップス等

a DRUM TAO 2022 『KAIKI』（和太鼓）

2回公演合わせて約千人もの方に和太鼓の魅力を楽しんで頂きました。

b 田原俊彦「TOSHIHIKO TAHARA DOUBLE ‘T’ TOUR2022」

懐かしい歌声と軽快なダンスに来場者は魅了されました。

c 市民吹奏楽の夕べ2022 ブリヂストン吹奏楽団久留米コンサート

今回は4年ぶりに三友サルビアホールで満席のお客様を迎えて開催することができました。

d はやしべさとし三十歳の旅立ち

「泣ける声」といわれるはやしべさんの柔らかな叙情歌と賛助出演の防府アスピラート児童合唱団“Fanfare”（ファンファーレ）の美声に、来場者から盛大な拍手を浴びました。

（2）音楽育成事業（資料3頁参照）

幅広い層の市民に、歌うことと楽器を演奏することの楽しさを体感していただくことを目的として通年開催しています。

a こども合唱教室

市民音楽祭や灯りの下でコンサートにも参加して成果を発表しました。

b 弦楽合奏教室

定期演奏会の開催や市民音楽祭への出演など充実した一年でした。

c 吹奏楽教室

新型コロナウイルス感染拡大の影響により活動を自粛した期間もあり、練習不足ではありましたが、全日本吹奏楽コンクール中国大会に出場することができました。

d 合唱教室

防府音楽祭では日本語とドイツ語が入り混じった曲を入念に練習し、本番ではその成果を存分に発揮することができました。

e チェンバロ講座 触ってみよう！

小学生から大人まで定員いっぱい未知の楽器チェンバロの演奏を体験し、時代を超える魅惑的な音色を楽しみました。

(3) 音楽普及事業 (資料3頁参照)

各種音楽セミナーを開催し、音楽に対する興味・関心を広げてもらうように普及事業を展開しました。

ア 主催事業

a 音楽セミナー／田中雅弘の音楽旅日記20

防府市出身のチェリスト田中雅弘氏を講師に迎えて、記念すべき20回目の音楽セミナーは『音楽でまちおこし！？』と題し、音楽で台湾との文化交流を図るという壮大なお話と演奏を披露しました。

b 音楽セミナー/ピアノを語る～鍵盤から紡ぐ夢弦の響き～

防府市出身のピアニスト友清祐子氏を講師に招き、演奏を交えながらピアノの変遷やそれぞれの作品について語ってもらうことによって、楽器への理解を深めました。

(4) 美術鑑賞事業 (資料4頁～5頁参照)

本年度は、企画展を5事業開催し、18,100人の方にご参加いただきました。

ア 主催事業

a 企画展「中村佑介展」

さだまさしやASIAN KUNG-FU GENERATION (アジアン・カンフー・ジェネレーション) などトップアーティストのCDジャケットなどのデザインを手がける日本を代表するイラストレーター430点を超える作品を集めた企画展で、九州山口地区では初めての実施でもあり、約7千人のファンや来場者で賑わいました。

b 企画展「はしもとみお木彫展—カタチの生まれるところ」

動物の木彫作品に手で直接触れることができる展覧会として大変な人気で約6千5百人の方にご来場いただきました。

コロナ禍でありながら、感染防止対策を万全に行った上で、作家のコンセプトである「触れる展示」を最後まで続けることができました。

関連イベントとして、作家本人とその仲間たちが集い音楽ホールで開催した「猫町アスピラートコンサート」では約250人もの入場者がありました。

c 小企画展「田中稔之展 まるくつながる ふたつのこころ」

アスピラートの開館記念企画展として開催した「田中稔之展」の2度目の展覧会として企画しました。県内の公共施設などにあり普段は限られた人の目にしか触れることのない作品を一堂に集め、来場者から大変高い評価を得ました。

d yab 山口朝日放送開局30周年記念&アスピラート開館25周年記念特別企画「シルバニアファミリー企画展 シルバニア村のおいしい時間 in 山口」

(令和4年度～令和5年度事業)

日本のおもちゃメーカー「エポック社」が1985年から展開しているドールハウスのシリーズ「シルバニアファミリー」の世界を紹介する展覧会を、yab 山口朝日放送との共同主催で、春休み期間を含めて2年度に渡り開催しました。

この展覧会は大型ジオラマなどを鑑賞できるほか、大きな人形のならばフォトスポットや実際の商品で遊べるプレイコーナーなども展開し、連日親子連れで賑わいました。令和5年3月25日から3月31日までの期間で2,947人の入場者がありました。

e アスピラートでクリスマス／幸せますカメラ女子部写真展

毎年防府中心市街地の近隣商業施設と連携して開催している企画で、体験できるプロジェクトマップ「うごキャラ2」と題して、自分がぬり絵をしたキャラクターがひとの動きに合わせて動くという企画で、入場制限をするほどの人気でした。

また、地元防府商工高等学校の授業の一環として取り組んでいる「カメラ女子部」の写真展も開催しました。

なお、計画していた事業「美術鑑賞バス」、「ふるさとの匠たち 腕前探訪」については、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の観点から中止といたしました。

(5) 美術育成事業 (資料5頁～6頁参照)

例年市民から大変要望の多い、幼児から楽しめる造形ワークショップ等、子どもたちを対象とした美術育成事業を開催しました。

ア 主催事業

a ゆめあーとひろば

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から一定の期間は中止としましたが、全6回のうち5回開催し、143人の親子がワークショップを楽しみました。

イ 共催事業

a 瀬戸内デザイングランプリ2022入賞作品展

県内の小中高生を対象としたデザインポスターのプロジェクトの入賞作品展で、7回目となる今回は「先生」をテーマにした作品を募集し690作品もの応募がありました。

(6) 発表・支援事業（資料6頁～7頁参照）

ア 主催事業

a フェスタアスピラート2023（音楽事業）

1階市民スペース12団体、3階音楽ホール22団体、総勢306人が出演し、観覧者含めて約1,200人の方が集まりました。コロナ禍ではありましたが、出演者は観客の前で発表出来る喜びを改めて感じる事ができ、来場者は様々なジャンルの生演奏や舞踊などを楽しみました。

b フェスタアスピラート2023（美術部門）

写真コンテストの今回のテーマ「新しい日々」に116点の応募があり、会期中の185票の来場者投票と写真家等による審査により各賞が決定し、市民の作品の発表を楽しみました。

イ 共催事業

a 防府吹奏楽団第19回定期演奏会

開催会場を昨年の三友サルビアホールからアスピラートに変えて開催しました。

b 防府弦楽合奏団コンサート

新型コロナウイルスの影響で1年延期での開催となりましたが映画音楽などを披露し好評を得ました。

c 第31回能章まつり

防府市出身の作曲家大村能章を顕彰する歌謡祭で幅広い選曲がなされており広い世代のお客様に楽しんでいただくことができました。

d 防府アスピラート児童合唱団”Fanfare”（ファンファーレ）第2回定期演奏会

ダンスも入ったドラえもんメドレー、金子みすゞ作詞の「わたしと小鳥とすずと」、ふるさとの四季メドレーなどを披露し会場を盛り上げました。

(7) その他の文化鑑賞事業（資料7頁参照）

ア 主催事業

a 会員招待事業

「君もファーストペンギンになろう」と題して実業家坪内知佳さんの講演会を開催しました。何事があっても前向きな坪内さんの姿勢に来場された方も感銘を受けておられました。

b が〜まるちょぼ 猛烈・炸裂・ドッカンコメディー!!

台詞がなく身体や表情で表現するパントマイムの第一人者の公演は圧巻で、観客を笑いの渦に巻き込みました。新型コロナウイルス感染症の対策を行った上で、舞台上上がってもらった観客とのやり取りで会場は一層盛り上がりました。

(8) 文化施設の管理運営（資料8頁～9頁参照）

施設の設置目的に沿ってそれぞれの特徴を活かしながら、市民が利用しやすい施設となるよう、各施設が連携をとりながら利用促進を図りました。

ア 防府市公会堂

市民の福祉を増進し、生活文化の向上に資するとともに広く集会の場として使用に供するために設置された公会堂は、その目的にかなう管理運営に努めました。

a 施設整備

冷却塔の中の冷却水の水質管理を行うため、新たに冷却塔用薬注ポンプを取付けるなど、館内の環境整備や安全性の確保に努めました。

b 利用状況

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止対策をとりながらの運営となりましたが、令和4年度は、貸館の停止はなく昨年度の開館日数243日から平常時の308日になりました。その影響で、利用率は29%となり前年度より5ポイント下がりましたが、利用人数は36,939人となり、昨年度より約5千人増加しました。

また、各施設の中で「4号室」と「5号室」の利用状況が好転し、特に「物品販売・商業宣伝」の利用が伸びています。

イ 防府市地域交流センター

誰もが利用しやすい施設となるように、以下のとおり管理運営を行いました。

a 施設整備

開館から24年が経過し、1階市民スペースの雨漏りを始めとし、館内の各種設備に経年劣化による不具合が多数発生しています。これについて、まずは安全対策を第一に、火災報知器、と非常用放送設備や非常用発電機のバッテリー更新、

一部の空調設備や音楽ホールの照明用ケーブル、音楽ホール空調機の電源制御盤の修理、使用頻度の高い舞台用ヤマハピアノのオーバーホールなど緊急度の高いものを優先して行いました。

その他経年劣化が生じている部分については、その都度、防府市とも協議しつつ修繕を行ってきておりますが、経費の面からも今後も厳しい状況が続くものと想定されます。

また、施設の裏側を公開することを通じて一般の方に会館を親しんでもらおうと例年開催しているバックステージツアーは、企画、運営、実施を地元高校生と協力して行い、参加者に大変な好評を得ました。

なお、令和4年5月に1階市民スペースに防府市文化協会が運営を行う市民ギャラリーが完成しました。同協会の個人、団体の会員の発表の場となるもので、毎週末には作品の展示などが行われました。

b 利用状況

新型コロナウイルスの感染拡大防止による利用制限もある中、全館の平均利用率は前年度の59%から67%まで回復し、利用人数は前年度の58,429人から74,098人に増加しました。この人数には市民ギャラリーの年間来場者数約5千人も含まれています。

各施設の利用率の内訳としては、音楽ホールが63%（前年度74%）、リハーサル室が73%（同42%）、展示ホールが72%（同64%）、練習室が73%（同63%）となっています。

音楽ホール利用率が減少した要因は、催事での年間利用日数は昨年度と同じですが、利用緩和により会館の利用可能日数が増加したためです。

2 科学及び科学技術に関する知識の普及・啓発を図る科学館運営事業

第四期指定管理期間2年目の令和4年度は、昨年度に引き続き安心・安全に配慮しながら、コロナ禍でも多くの方々に科学の楽しさや面白さが伝わるようなコンテンツを提供できるよう、多様な科学事業を進めて参りました。また、コロナの状況に応じて、体験型や観覧型の展示のバランスを取りながら、3密を避けるなどの新型コロナ対策を講じながら、科学の学びの場を止めないよう努めました。

(1) 教育普及事業（資料10頁～12頁参照）

① 日常事業

当館の展示は、光と色の性質や身近な科学現象の原理などを紹介する2階常設展

示室をはじめ、地域の自然コーナーや、宇宙と太陽の謎や生命の進化の歴史に触れることのできる回廊展示室などで構成されています。

本年度は、新たに9月に2階常設展示室に「ニコラ・テスラコーナー」を設置し、ニコラ・テスラを顕彰すべく、2019年に防府市ホストタウン推進事業の文化交流事業の一環として実施した特別展「ニコラ・テスラ展」にちなんだ展示を行いました。

「サイエンスショー」、「たのしい工作」、「ソラールの科学教室」の週末に実施する日常事業につきましては、新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら実施し、少しでも多くの来館者へ科学を学ぶ機会を提供しました。

なお、3密を避けることが困難な「太陽望遠鏡のガイドツアー」は中止とし、代わりに来館者が日々の太陽の状況を観察できるように、太陽望遠鏡のライブ映像等を館内に展示しました。

2月からHPをリニューアルし、2月以降の事業の広報を積極的に行いました。

ア たのしい工作

昨年度まで新型コロナウイルス対策として中止していた対面指導を再開し、土・日・祝日、夏休み、冬休み、春休みに実施しました。

毎月工作内容を変更し、計14種類の工作を実施し、5,174人の来館者に実施しました。

イ サイエンスショー

春休み期間と12月の冬休み期間、及び土・日・祝日に、一般の来館者向けに1日2回実施しました。また、平日でも社会見学の学校団体などの要望のあった団体向けにも実施しました。

ウ ソラールの科学教室

防府の自然や星空の観察、ものづくり等を通して科学の奥深さを追及する内容の科学教室を実施しました。地学実験教室「南極の石を調べてみよう」、自然観察教室「海の貝調べ」、化学実験教室「クリスマスキャンドルを作ろう」など、自然観察を中心とした毎年同じテーマの教室と新しいテーマの教室のバランスを考慮しながら、合計44講座を開催し、計905人の受講がありました。

宇宙の日特別講座「宇宙教室」では、「はやぶさ2」と小惑星」をテーマにした講話を行い、来館参加者に加えて、当館初の試みとなるオンラインで同時配信することで、自宅からでも聴講できるという選択肢を増やし、幅広く学びの場を提供しました。

また、対象を絞った低年齢層向け講座の実施など、年齢層を限定した講座の開催を試みました。

エ クイズラリー

館内での滞在時間が比較的長い社会見学の学校団体向けに、回廊展示室の壁面展示の学びが深まるようなクイズラリーを実施しました。

② 特別事業

子どもから大人までの幅広い年齢層に対して、わかりやすい展示方法や体験を通して、科学への興味・関心を高めることができる事業を実施して参りました。

また、企画展・特別展に加えて、常設期間中にスポット展も開催し、来館者に様々な分野の科学の学びの場を提供しました。

ア 企画展「ぐるぐるミュージアム～まわる、うごく！歯車のチカラ★～」

「回転」をテーマに、からくり作家制作の歯車などを利用したからくり作品の実物資料や、「ベアリング」の歴史や性能などをパネル・体験展示で紹介しました。身近でありながらあまり触れることのない「歯車」や「ベアリング」の仕組みを、遊びながら体験してもらうことで、「ものづくり」や「技術」に興味をもっていただくことを目的に開催しました。

4月1日から7月10日までの会期で、12,676人の来館がありました。

イ スポット展示「小惑星『リュウグウ』サンプルレプリカ」

JAXA 宇宙科学研究所のある神奈川県相模原市が JAXA 宇宙科学研究所「はやぶさ2プロジェクト」との連携事業として製作した、小惑星探査機「はやぶさ2」が持ち帰った小惑星リュウグウのサンプルのレプリカを、関連動画やパネルと共にソラール2階に特設コーナーを設けて展示し、紹介しました。

「はやぶさ2」の偉業や小惑星探査の意義・目的、初期分析の結果等を紹介し、市民をはじめ広く近隣の市町の方々に、宇宙開発や科学技術の理解増進と、将来の日本の科学を担う青少年の育成の一助とすることを目的に展示しました。

ウ 夏休み特別企画「サイエンスアカデミー2022」

主に幼児や小・中学生の科学的な好奇心を刺激し、科学やものづくりのおもしろさを知っていただくきっかけづくりと、夏休みの自由研究の一助になることを目的に、「サイエンスアカデミー2022」を開催しました。平成25年度から開催している本事業も、令和4年度で9回目（令和2年度はコロナ対策のため中止）を迎えました。

本年度も、昨年度のコロナ禍での状況を鑑み、引き続きコロナ対策として、①山口県民限定、②講師をサイエンス FUN クラブ・ソラール科学教育指導員・大学・博物館・元教員の方のみに限定、③机を1家族か個人での利用に限定するな

どの対策を講じ、Aコース（4歳～小学6年生対象）を6講座、Bコース（小学3年生～中学3年生対象）を18講座実施しました。また、大学と博物館にご協力いただき、今年度から新たに設けた講義形式のCコース（小学5年生～一般対象）を3講座実施しました。さらに、会期中にそれぞれ1日限定で展示・随時体験のみの企業ブースを設け、3社にご協力いただきました。

7月30日から8月19日までの会期で、3,311人の来館がありました。

エ 防府市小中学校科学作品展

防府市小・中学校教育研究会理科研修部との共催事業として、市内の小・中学生の夏休みの自由研究・工作から、校内選考で選ばれた優秀作品を毎年展示しています。

また、本年度から新たに特別賞「ニコラ・テスラ賞」が設けられました。本年度は、小学校の部274点、中学校の部146点の作品を展示しました。

9月28日から10月2日までの会期で、1,929人の来館がありました。

オ 企画展「見分けの達人展」

「水晶とガラス玉」などの天然物と人工物や、昆虫や植物などの自然物の種類や在来種・外来種などの見分け方や違いについて、観察ポイントや科学的手法などを体験展示物で紹介しました。

本展では、当館オリジナル企画展として、幅広い年齢層が、謎解き感覚で楽しみながら、違いの分かる眼を養っていただくことを目的に開催しました。

また、防府市文化財郷土資料館と連携し、郷土資料館を第2会場として、やきもの見分けなどをテーマにしたコラボ展示も行いました。

10月29日から1月15日までの会期で、4,973人の来館がありました。

カ スポット展「星座展ーギリシャ神話からキトラ古墳までー」

国際的に決められている88星座の歴史を、星座を制定した人々や、黄道12星座にまつわるギリシャ神話とともに紹介する、全国科学館連携協議会の巡回展を利用し、身近な星座や星空に関心を抱いてもらうことを目的に開催しました。

当館独自のコーナーとして、アマチュア天文写真家が撮影した天文写真や、ブラックライトで蛍光する星座アートも展示しました。また、多目的ホールで展示に関連した星座のお話ビデオを上映し、より星座について興味・関心を高めていただけるよう努めました。

1月28日から3月5日までの会期で、2,762人の来館がありました。

キ スポット展「走る！鉄道模型展」

当館の常設展示の中でも特に人気のある「鉄道模型」の規模を拡大し、昭和初期

から平成の半ばにかけて活躍していた列車の模型（1/80 サイズ）を 8.1m×6.3m のレイアウト上で複数同時に走らせるイベントを開催しました。様々な車両の歴史や走行する仕組みの解説、更には、一般的な鉄道模型の展示では見ることの出来ないコンピュータ制御による自動運転と従来の手動運転との比較解説も行い、科学館ならではの展示になるよう努めました。

他の企画展等のイベントのない閑散期の入館者の底上げを図るために、昨年度まで開催していた企画展期間を含む冬休み期間中から、3月の常設展示期間に開催変更し、入館者増に大きく貢献しました。

3月18日から3月26日までの会期で、2,189人の来館がありました。

（２）情報収集保管事業（資料12頁参照）

当館の太陽望遠鏡による太陽観測映像を、デジタルデータとして保管に努めました。

（３）啓発調査研究事業

科学教室や工作などの教材開発に取り組みました。

（４）学校連携事業及び外部連携事業（資料12頁～16頁参照）

① 学校連携事業

予め希望のあった社会見学の学校団体向けにサイエンスショーやクイズラリーを実施し、館内での充実した科学の学びができるよう努めました。

市内外の小中学校へのお出前講座として、理科のお出前授業やクラブ活動、科学部、PTA活動、放課後子ども教室などに対応し、青少年への科学の普及活動を積極的に行いました。特に、今年度初の試みとして中学生向けに「太陽」をテーマにしたオンライン授業も実施しました。また、教員向け講座として、ICT活用教育に関するお出前講座も実施しました。さらに、来館で実施希望のあった幼稚園向けの「太陽」についての講話や、市内の保育園からのお出前講座要請にもお応えしました。

館内実習として、博物館実習生を2人受け入れ、人材育成支援も行いました。また、中学校の職場体験実習を4人、大学のボランティア実習を1人、大学や短期大学のインターンシップを2人受け入れました。さらに、教職員の研修（中堅教諭等資質向上研修）として、市内の小中学校から教職員を1人受け入れました。

② 外部連携事業

防府市教育委員会や公民館・児童館、地域交流センター、図書館、山口大学、防府市社会福祉協議会と連携して、家庭教育学級や一般向け講座など、それぞれが主催する活動の講師として、職員を派遣しました。

毎年恒例となった、地元コミュニティFMや国土交通省河川管理課、防府市との

環境教育特別講座などの連携事業に加えて、新規防災教室の実施、防府市文化財郷土資料館や山頭火ふるさと館、防府観光コンベンション協会と連携した文化・歴史と自然科学の2分野視点での展示や講座も実施しました。

夏休み期間に、防府図書館との共催で、司書と学芸員双方の視点から読書感想文のヒントとなる展示を両館で行いました。

また、防府市文化財郷土資料館による「貝合わせ体験」などの出張展示を行い、幼児や小学生を中心に多くの方に展示を体験していただき、大変好評でした。他館異分野のコラボ展示によって、お互いの施設の利用促進を目指し、一定の成果を得ることが出来ました。

さらに、塩事業センターや電池工業会が開催している出前講座を特別講座として積極的に活用・実施し、幅広い科学の学びの場を提供しました。

(5) 科学教育普及指導員派遣事業

本年度は、特に要望が多かった、市内の小中学校のクラブ活動や放課後子ども教室などへの出前講座の依頼に対応するため、必要な知識や技術をもった当館の科学教育指導員（元専門職員）を派遣し、講座を実施しました。19回実施し、のべ578人の児童・生徒へ、実験・工作等の指導を通して、科学の不思議さや楽しさを伝えることができました。

(6) 防府市少年少女発明クラブ

青少年の科学技術に対する夢と創造力を育み、創造性豊かな人間形成を図ることを目的に、当館を活動の場として開設された発明クラブの活動も21年目になりました。ボランティアグループ「サイエンスFUNクラブ」の皆様や専門知識をお持ちの方の多大なお力をいただき、充実した活動を行っています。

今年度は、基礎コースと応用コース（電子工作、化学実験）の2コースに分けて活動内容を構成し、5月から3月まで活動を行いました。

また、昨年度に引き続き、密集を避けて1講座1会場にするために活動スケジュールの調整等を行い、より安全な活動が提供できるよう工夫をして実施しました。

(7) 科学施設の管理運営（資料17頁～18頁参照）

① 防府市青少年科学館

市民の科学及び科学技術に関する知識の普及及び啓発を図るとともに、創造性豊かな青少年を育成することを目的として設置された当施設は、その設置目的にかなうよう管理運営に努めました。

ア 施設整備・運営

本年度も、新型コロナウイルスの感染対策を継続し、ご来館の皆様が安心して施設を利用できるよう、消毒清掃や換気、感染リスクの高い展示物の一部使用制限、講座の人数制限など、安全な運営のための対策を適切に実施しました。

また、館内各所にアルコール消毒液を設置するとともに、来館者への検温など感染防止に取り組みました。

施設の維持管理については、清掃や設備管理業務などにおいて、受託者と意見交換や情報共有を行いながら、お客様の安全と安心を第一に適切な管理・運営に努めました。長年不具合が発生したまま保留になっていた事務室やワークショップ、視聴覚室等の照明のLED化と空調機器の取替えは市担当課によって実施していただきました。

しかし、展示室等の空調設備などで経年劣化に伴う機器の不具合が発生し、その都度修繕を行いました。交換部品が手に入らず機器の更新が必要な設備もあります。

今後も開館から25年が経過し、エレベーター等の様々な設備の劣化が進んでいますので、防府市と情報を共有し、長寿命化に向けた対策の検討を次年度も継続していきます。

平成27年度から開始した社会見学の引率教職員に対する観覧料免除は、本年度も引き続き実施しました。

常設展示については、感染リスクの少ないものは再展示するとともに、柏木幸助コーナーを1階ロビーに、太陽望遠鏡のリアルタイム映像を上映するパソコンを2階常設展示室前に移動するなど、展示テーマに合わせて設置場所の更新を行いました。情報コーナーについては、防府図書館の協力のもと蔵書を企画展に合わせたものを選択して来館者が閲覧できるようにしました。

さらに、来館者への情報発信として、デジタルサイネージを設置し、講座の案内等をリアルタイムで表示するようにしました。あわせて、本館のホームページを大幅にリニューアルし、利用者に親しみやすく、必要な情報が得られるようデザインと閲覧性の向上を図りました。

イ 利用状況（資料16頁～17頁参照）

令和4年度の入館者数は、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響もありましたが、休館することなく開館した結果、最終的には32,530人でした。

また、館外普及活動として、市内の小中学校や公民館の家庭教育学級などへの派遣講座を行い、2,398人の参加がありました。入館者及び館外参加者人数は総合計で34,928人でした。

3 学校教育及び社会教育における視聴覚教育の振興に関する事業

学校教育及び社会教育における視聴覚教育の振興と学習支援を行うことを目的に、視聴覚教育事業を実施しました。

(1) 視聴覚機材や教材の計画的な充足（資料19頁参照）

防府市視聴覚ライブラリー運営委員会については、令和4年9月28日に開催し、令和3年度の事業報告及び決算について、令和4年度の事業計画及び予算について、更に令和5年度事業計画についてご審議いただき、特に、今後の自主制作教材について様々なご意見をいただきました。

令和4年度の自主制作教材として、阿弥陀寺と重源上人の功績を紹介するDVD「知ってる？重源上人～東大寺再建の立役者～」を制作しました。

また、講座や学校教育との連携のために、オンライン配信ができるよう機材の充実を行いました。

(2) 視聴覚機材や教材の貸出管理（資料19頁～20頁参照）

視聴覚機材の貸出は197件、延べ807日となり、令和3年度に比較して、それぞれ52件、96日と増加しました。

また、視聴覚教材の貸出は新型コロナウイルス感染症の影響やタブレット端末の普及もあり、12件、延べ日数43日となり、昨年度より45%の減少となりました。

しかし、ウィズコロナ、アフターコロナを見据え、今後も市民の皆様の学習活動を支援できるような視聴覚機材や教材を揃えるとともに、引き続き市内小中学校や貸出対象となる団体へ向けたPRを行ってまいります。

(3) 防府市青少年科学館の多目的ホールでのビデオ上映（資料21頁参照）

科学館の多目的ホールでは、スポット展などに沿う教材や、科学により一層興味をもっていただけるような教材を選定し、上映しました。また、企画展などで多目的ホールが使用できない時期にも、ロビーで大型テレビによる上映を行いました。

(4) 市内小学校あて巡回ビデオの配送（資料21頁参照）

昨年度まで実施していた巡回ビデオについては、児童生徒1人1台のタブレット端末が整備され、ネットによる視聴覚教材の閲覧が可能になったことを受け、令和4年度より配送を中止しました。今後はライブラリー運営委員会や防府市小学校教育研究会視聴覚教育研修部と協議した結果、ライブラリー教材の目録をホームページ等で紹介し、希望する学校に直接貸し出しする方法に変更しました。

(5) 講習会の開催

昨年度は新型コロナウイルス対応のため中止しましたが、今年度は、スマートフォンやタブレット端末を利用した動画編集講習会を2月22日と3月1日の2回

シリーズで開催しました。

(6) ホームページの充実

館全体のホームページのリニューアルにともない、自主制作の「地域教材ビデオ」をホームページ上で直接閲覧できるようにしました。

またライブラリーが所有する教材の目録を、防府市視聴覚ライブラリーのホームページからより自由に閲覧できるよう、引き続き管理しました。

4 教育及び文化の情報拠点として生涯学習の支援を図る図書館運営事業

教育及び文化の情報拠点として、図書館資料・情報提供サービスの向上・強化を図るとともに、その資料・情報を活用できる生涯学習活動の場として、集会・文化活動の推進に努めました。

また、「第2次防府市図書館サービス振興基本計画」や「第3次防府市子ども読書活動推進計画」に基づき、図書館利用促進や読書活動推進のための施策に取り組みました。

※具体的な数値統計については、別紙参考資料22頁～25頁参照を参照。

(1) 誰もが等しく学べる、豊かな資料と機能を持つ図書館

① 市民の日常生活、学習活動に寄与する、質・量ともに充実した資料を持つ図書館

ア 資料収集業務

図書館資料の適正な選書・収集を「防府市立防府図書館資料収集要綱」に基づいて行い、質・量両面の充実に努めました。

地域資料、特に防府市関係資料については、市関係者関連資料・市の行政関連資料及び歴史・地誌・民俗資料等の収集を行い、防府図書館独自の特徴的なコレクションの形成に努めました。

また、10月1日(土)に電子図書館を開設しましたが、導入初年度ということもあり、1,000冊の電子書籍を購入しました。なお、選書に当たっては、紙の本と同様「資料収集要綱」に則り、特定の分野に偏ることなく幅広く収集しました。

イ 資料分類・目録整備業務

資料の受入れに際しては、受贈資料も含めて体系的に管理するため、迅速・正確な資料組織化・装備を行いました。資料の分類は日本十進分類法新訂10版に基づき適切な書架分類と配列を行い、資料受入れと同時に、日本目録規則に基づく事務用コンピュータ目録を作成し、利用者に分かりやすいOPAC(オンライン閲覧目録)検索画面等を提供しました。

ウ 書架管理・蔵書点検業務

月例整理日だけでなく、常に書架の整理整頓に努め、返却資料も迅速に処理しました。延滞資料については電話・葉書・Eメール等により定期的に返却を督促し、延滞資料に予約が入った場合は随時督促を行いました。

また、10月4日（火）～10月6日（木）、3月7日（火）～3月9日（木）には、定例の全開架資料の蔵書点検を行いました。

エ 資料提供業務

窓口カウンターでの、資料の貸出及び返却業務、利用登録業務、予約・リクエスト受付業務等を、常に正確・迅速に行うよう努めました。

また、個人情報保護の観点から、自動貸出機利用奨励のための案内を行いました。

② 老若男女を問わず、様々な立場の人が、誰でも気軽に楽しく利用できる図書館

ア コンピュータシステム管理業務

コンピュータシステムの円滑な運用により、サービスの強化に努めました。Web上での資料検索・予約・貸出期間延長、利用者が自らの読書履歴を管理する読書手帳、利用者がWeb上で読みたい本や既に読んだ本を管理するMy本棚、読書目標や読書量を個人管理する読書マラソン等の機能の活用促進に努めました。

イ 情報発信（広報）業務

ホームページを適切に管理運営するため、随時情報を更新し、内容の整備と情報提供サービスの充実に努めました。

なお、10月1日（土）の電子図書館オープンに合わせて、9月28日（水）にホームページをリニューアルしました。

また、「ほうふ図書館だより」「ほうふとしょかんこどもしんぶん」「新刊紹介」（以上、月刊）、「行政関係図書紹介」（季刊）等の広報紙を発行し、行事関係チラシ等をその都度作成するとともに、市広報「ほうふ」（月2回刊）、防府市文化振興財団機関紙「イベントアイ」（隔月刊）、防府市メールサービス（随時）、及び防府市文化振興財団「メールマガジン」（毎月）、地域情報誌「ほっふ」（毎月）に図書館関係記事を掲載しました。

なお、12月21日（水）より、新たな情報発信手段としてSNSの「インスタグラム」を採用し、利用案内やイベント案内を開始しました。

さらに、地域コミュニティーFMラジオ「FMわっしょい」の『防府市からのお知らせ情報モリモリ』に、図書館職員が毎月第2・4木曜日に定期出演するとともに、山口ケーブルビジョンのニュース番組「まちかどNEWS」（5月20日（金））に出演しました。

ウ 図書館年報作成業務

「令和3年度図書館年報」及び「数字で見る防府図書館（令和3年度の統計より）」を5月31日（火）付で発行し、ホームページにも掲載しました。

エ サービス環境整備

図書館施設・設備・備品の点検と修繕を適切に実施し、恒常的で計画的な清掃業務を行うことにより、安全で快適に利用できる環境整備に努めました。

また、増加したDVDを配架するため、5月6日（金）、資料検索コーナーの横にDVD用ラックを設置しました。

さらに、3月9日（木）、図書館まつり実行委員会より寄贈された「布絵本展示用棚」を親子読書コーナーに設置しました。

オ 安全対策・危機管理業務

施設管理会社・警備会社・警察等との連携を密にしながら、常に的確な状況把握と防犯管理に努め、施設管理会社とは毎月1回定期協議を行いました。安全管理上問題がある行為や迷惑行為に対しては、毅然たる態度で対応しました。AEDや防犯カメラの点検を毎日開館前に行い、施設の危機管理マニュアルに基づき、常に事故や犯罪等の発生に迅速・的確な対応が取れるよう備えました。10月16日（木）と3月9日（木）に図書館単独の避難訓練を行い、10月20日（木）と3月15日（水）にはルルサス防府全体の避難訓練に参加しました。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年度に引き続き、館内においては受付カウンターにはビニールシート壁を設けるとともに、閲覧用の座席数は半減して密接を避け、館内放送によって注意を喚起するなどの対応策をとりました。入口には体表検知カメラと足踏み式消毒スタンドを設置し、利用者が入館前に体温を測り、消毒することができるようにしました。利用者には手指の消毒とマスクの着用をお願いし、自習目的の研修室の使用、おはなしの部屋・準備室の使用を中止しました。なお、利用制限していたDVD・CDの視聴、インターネットコーナーの利用、日経新聞の閲覧、国立国会図書館デジタル化資料データ送信サービスの利用については、7月1日（金）より、その制限を解除しました。3月10日（金）からは、閲覧用座席数を平常通りに戻し、3月13日（月）からは、マスクの着脱は個人の判断にゆだねることとして、大声を出さないイベントの参加可能人数も会場定員の100%に戻しました。

さらに、台風14号接近による危険を回避するため、9月19日（月）を臨時休館としました。

カ 利用マナー啓発業務

「マナーアップキャンペーン」(会期7月6日(水)～8月31日(水))を実施し、小学生までを対象とした「グッドマナーチャレンジ」では、グッドマナーチャレンジカードを550枚配布し、目標達成者は67人でした。

③ 図書館から遠い所に住んでいる人にも、サービスできる図書館

ア 移動図書館車「わっしょい文庫」運行業務

市内全域サービスの充実を図るため、移動図書館車に常時約3,500冊の図書を積載し、新設したステーションの大道中学校と麒麟レモンスタジアム武道館横を含めた6コース37ステーションを、2週間に1回の周期で巡回しました。

また、7月17日(日)にイオンタウン防府で開催された「みんな集まれ!はたらく車展」、11月6日(日)にJAふれあい西浦支所で開催された「西浦まつり」、11月14日(月)に行われた玉祖小学校2年生の生活科の授業において、移動図書館車の臨時出張サービスを行いました。

イ 電子図書館運營業務

10月1日(土)、図書館への来館が困難な方や障害のある方等、幅広い利用を可能にするため、インターネットを通じて、いつでもどこでも電子書籍を利用できる電子図書館を開設しました。

また、10月2日(日)、防府市がルルサス文化センターで開催した「デジタルの日」の記念行事に参加し、電子図書館の利用体験をするコーナーを設けて、25名の方に体験していただきました。

④ 調査・研究・読書相談などに、的確に対応できる図書館

ア レファレンス(調査研究相談・読書相談)業務

資料相談カウンターにおいて司書有資格者が、利用者への調査研究活動支援、資料利用案内、読書案内等のレファレンスサービスを行いました。児童カウンターにおいても、資料利用案内・読書案内等の業務を行って、子どもの学習活動・読書活動を支援しました。

また、参加登録している、国立国会図書館の「図書館向けデジタル化資料送信サービス」閲覧業務の利用促進や「レファレンス協同データベース」の活用を図るとともに、他の図書館や市内外の関係機関等に照会したり、利用者をそれらの機関へ案内・紹介したりする、レフェラルサービスを行いました。

さらに、レファレンス事例集や新着図書案内・テーマ別ブックリスト・パスファインダー(テーマ別資料利用案内)等の充実に努めるとともに、レファレンス

研修への参加や、利用者とのコミュニケーションを図るフロアワークの強化に努めました。

イ 図書館資料の複写サービス業務

利用者の求めに応じ、著作権法や防府市手数料条例に基づいた図書館資料の複写サービスを適正に実施しました。

(2) 地域の人々と手を携えて、豊かな交流の場を創る図書館

① 様々な図書館事業を利用者と協働して行い、学習交流の場、コミュニティセンターとしての機能を持つ図書館

ア ボランティア団体・生涯学習グループ等との協働推進業務

4月21日（木）に開催された「防府図書館利用者・サークル連絡会活動発表会」において、図書館職員によるNHKドラマ「鎌倉殿の13人」に関する図書のブックトークを、7月28日（木）に開催された同会の総会においては、「山頭火」に関する図書のブックトークを、2月1日（水）に開催された「図書館講座」において「映画」に関する図書のブックトークを行いました。

また、「第11回防府市子ども読書フェスティバル」を、実行委員会、ボランティア団体等と協働で、6月5日（日）に開催し、「子ども読書のまち・防府」第11号を7月19日（火）付けで実行委員会から発行しました。

さらに、「第32回防府図書館まつり」を、実行委員会、ボランティア団体等と協働で、10月15日（土）に開催しました。

② 学習ボランティアや、障害のある利用者のためのボランティアが、いきいきと楽しく活動できる図書館

ア ボランティア活動推進業務

「防府図書館ボランティア連絡会議」を1月26日（木）に開催し、図書館サービスの向上を図るため、現状と課題についての意見交換をしました。

また、図書館ボランティアの新規育成を図るための講座「図書館ボランティア養成講座」は、2月2日（木）、9日（木）、16日（木）、23日（木）と4回シリーズで開催しました。

(3) 生涯学習活動の拠点として、集会文化活動に力を入れ、地域の力を高める図書館

① 様々な図書館行事を積極的に行い、地域の文化発展に貢献する図書館

ア イベント・懇談会業務

- ・ トークイベント・ワークショップ

「第11回防府市子ども読書フェスティバル」（6月5日（日）に開催）におい

て、児童文学作家・那須正幹さんを偲んでの「追悼座談会」や、ワークショップ「しおりを作ろう！」を開催しました。

- ・ 月いちキネマ

毎月1回、主に高齢者を対象とした懐かしの映画上映会を開催し、図書館職員による上映した映画に関する図書ブックトークを行いました。なお、8月7日（日）と8月14日（日）は、夏休みに合わせて子ども向けの映画を上映し、12月8日（木）には、障害者週間にあわせて「バリアフリー上映会」として開催しました。

- ・ 大人のくらし塾

主に高齢者を対象とした暮らしに役立つ実用講座として、前期はハンドメイド作家の藤井哉香氏を講師に迎え、「年賀状に使える消しゴムはんこ作り体験講座」を、11月10日（木）と11月24日（木）に開催（参加者21人）しました。また、後期は生涯学習インストラクターの於土居豊昭氏を講師に迎え、「スマホで写真編集をしてみよう」と題して、2月10日（金）、2月11日（土）に講座を開催（参加者23人）しました。どちらの講座も、参加者からは楽しく受講できたと好評を得ました。

- ・ ビブリオバトル

小学生から大人まで参加できる本の紹介コミュニケーションゲーム「ビブリオバトル（知的書評合戦）」の令和4年度第1回目を、11月3日（木）に開催しました。バトルとして高校生も参加し、おすすめ本のジャンルも多岐にわたって大いに盛り上がりました。第2回目は3月19日（日）に開催し、観覧者も多く盛会裏におわりました。

- ・ 利用者懇談会

12月1日（木）、図書館サービスの向上を図るために、利用者の意見や提言を聞く「防府図書館利用者懇談会」を開催し、参加者からさまざまな気づきが寄せられ、要望もいただきました。

- ・ クリスマスおはなし会

12月18日（日）、職員がサンタクロースに扮装して登場する「クリスマスおはなし会」を開催し、好評を得ました。

イ 資料展示・展覧会業務

展示コーナー・中央カウンター前・児童カウンター横での月例資料展示、及び新刊コーナー横・ヤング図書コーナー前でのミニ資料展示を、時宜に即したテーマを

選定し定期的に行いました。

また、7月9日（土）にアスピラートで開催された、防府市主催の「コミュニケーション条例制定記念講演」に際し、1階の市民スペースにおいて関連資料のミニ展示を行い、2月26日（日）にルルサスで開催された「生涯学習フェスティバル」においても、2階ロビーでパネル展示を行いました。

さらに、ブラウジングコーナーにおいては、防府市クリーンセンターによる、食品ロス削減月間に合わせてのパネル展示「食品ロスについて考えよう」（10月7日（金）～10月31日（月））を行いました。それにあわせて中央カウンター前では、月例展示「食品ロスを考えよう」（10月7日（金）～10月31日（月））を行いました。

同じくブラウジングコーナーにおいて、防府市政策推進課による「令和4年度山口県統計グラフコンクール入賞作品」の展示（12月1日（木）～12月11日（日））、西浦幼稚園による「西浦幼稚園の四季」の展示（1月5日（木）～2月3日（金））、「えじたま」の皆さんによる「世界自閉症啓発デー 発達障害啓発週間 自分らしく、理解者ととともに」の展示（3月25日（土）～4月14日（金））を行いました。

展示室では、常設展示「上山満之進と三哲文庫」を行いました。

② 生涯学習グループ活動を奨励し、その育成を図る図書館

ア 生涯学習グループ活動奨励・施設利用等許可業務

生涯学習グループの活動拠点として図書館の活用を推進するため、研修室他、集会スペースの利用許可等の業務を適正に行い、機会・場・設備・資料等を各団体に提供しました。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、研修室・録音室・障害者サービス室は人数制限を設け、お話のへや・準備室の使用は中止しました。

（４）地域の歴史や文化を大切にするとともに、国際理解を深めていく図書館

① 地域（郷土）資料を、積極的に収集・整理・保存・提供する図書館

ア 地域（郷土）資料収集業務

地域資料、特に防府市関係資料については、市関係者関連資料・市の行政関連資料及び歴史・地誌・民俗資料等の収集を行い、防府図書館独自の特徴的なコレクションの形成に努めました。

② 地域（郷土）の歴史や文化に係る事業を積極的に行う図書館

ア 上山満之進と三哲文庫顕彰業務

展示室内の常設展示「上山満之進と三哲文庫」について、随時、展示替えを行いました。

また、ブラウジングコーナー壁面においては、「三哲文庫、そして防府図書館」と題したパネル展示（9月7日（水）～10月3日（月））を行いました。

イ 防府史料刊行業務

「防府史料」第72集『周南先生文集 初編 自五至六』（山県周南著）を3月20日（月）付けで発行しました。

- ③ 姉妹都市などの図書館との交流事業を推進し、国際理解を深めるための資料を積極的に収集・整理・保存・提供する図書館

ア 春川市立図書館との資料交換業務

大韓民国春川市立図書館との資料交換協定に基づき100冊程度の資料を相互に寄贈し、受贈した資料を広く市民の利用に供しました。

（5）様々な教育文化施設とのネットワークを進め、サービスする図書館

- ① 学校や公民館との連携を深め、支援事業・協力事業を推進する図書館

ア 学校図書館支援業務

防府市教育委員会や市立小中学校との連携を密にして、ネットワーク・システムを活用した学校支援図書貸出業務や、貸出文庫業務を行うとともに、学校司書の研修の機会や場の提供に努めました。

また、小学校で開催される選書会（5月2校、6月5校、7月2校、9月2校、10月3校、11月2校）のためのリスト作成や図書の貸出しなど、学校司書との連携に努めました。

さらに、7月27日（水）に開催された防府市小教研図書館研究部会議に職員を派遣し、各種サービスや「調べる学習コンクール」について情報交換しました。

イ 地域文庫・団体貸出業務

市内15ヶ所の公民館に配本所を設置し、200冊の図書を3か月に1回交換する地域文庫業務を行いました。

また、随時、公民館・出張所会議に出席し、地域文庫や「ひなぎくネット」に係る諸連絡・利用案内等を行いました。

さらに、市内の施設・団体等の読書活動を支援する団体貸出業務として、貸出文庫業務を行いました。なお、新型コロナ感染拡大防止のため、小学校留守家庭学級を対象に、貸出のための選書を職員が代行する選書サービスを行いました。

② 他の図書館や博物館・美術館との相互協力を推進する図書館

ア 他の図書館や文書館・博物館・美術館との連携業務

他の図書館との資料相互貸借・レファレンス協力・研修活動等を積極的に行うとともに、博物館や文書館等との連携にも努めました。

山頭火ふるさと館の第五回自由律俳句大会（応募期間5月1日（日）～11月30日（水））のための投句箱を図書館内に設置し、8月17日（水）と11月18日（水）に開催された「山頭火を学ぶ会」に、講師として職員を派遣しました。種田山頭火生誕140年・山頭火ふるさと館開館5周年記念特別企画展「山頭火と芭蕉・良寛～尊敬した先人たち～」(会期：前期9月4日（日）～10月2日、後期10月7日（金）～12月5日（月）)との連携企画として、関連月例展示「山頭火生誕140周年」（11月2日（水）～12月5日（月））、関連ミニ資料展示「芭蕉・良寛」（11月2日（水）～12月5日（月））を行いました。

また、山口県及び島根県の7市町17館の合同企画「図書館で学ぶナナシマチの歴史」では、各図書館がリレー方式で講演会を開催するとともに、スタンプラリーを実施（136人参加）しました（会期：10月8日（土）～11月18日（金））。防府図書館では、11月18日（金）、山頭火ふるさと館の学芸員高張優子氏を講師に迎え、「種田山頭火の句を味わう」と題しての講演会を開催（20人参加）しました。

さらに、1月12日（木）に勝間公民館で開催された「聞いて得するふるさと講座」に講師として職員を派遣し、「子どもへの読書のすすめ」をテーマに講演とブックトークを行いました。

イ 防府市文化振興財団内連携事業

・ 文化事業との連携

アスピラートの「中村佑介展」(会期：3月26日（土）～5月8日（日）)との連携企画として、関連ミニ資料展示「ブックデザインの世界」（4月6日（水）～5月5日（木））、「はしもとみお木彫展 カタチの生まれるところ」(会期：7月1日（金）～8月14日（日）)の関連ミニ資料展示「はしもとみお木彫展 アトリエのほんだな」（7月10日（日）～8月14日（日））を行いました。

・ 科学事業との連携

ソラールとの連携企画「読書感想文のヒント～いつもとちょっと違う視点から、感想文を書いてみよう～」を実施しました。科学に関する課題図書について、科学館学芸員と図書館司書のそれぞれの視点から、読書感想文を書くヒン

トをパネルにし、資料とともに展示しました。(会期：図書館7月6日(水)～9月5日(月)、ソラール7月23日(土)～8月31日(水))

また、7月27日(水)より、ソラール来館者が科学に関する本を館内で閲覧できるよう、定期的に資料を交換する団体貸出を開始し、「見分けの達人展」(会期：10月29日(土)～1月15日(日))には展示用資料の貸出を行いました。

さらに、「紅葉どんぐり便」の受付窓口を、図書館と移動図書館車に11月2日(水)から23日(水)まで設置し、チラシを作成・配布しました。全部で約500枚の紅葉、14種類約43キロのどんぐりが集まり、11月30日(水)、ソラールから沖縄の小学校に向けてメッセージとともに発送されました。

(6) 子どもたちの読書活動を進めていく図書館

① 子ども読書活動推進を図るための研究と事業を、積極的に行う図書館

ア 子ども読書活動推進業務

・ 子ども図書館員

夏休みの7月25日(月)と8月1日(月)に、小学校4～6年生を対象とした「子ども図書館員」を開催しました。2日間で16人が参加しましたが、貸出や返却などのカウンター業務のほか、閉架書庫内を見学したり、「ライぶらり」を体験したりしました。

・ 防府市図書館を使った調べる学習コンクール

市内の小中学生を対象として防府市教育委員会と共催する、「第10回防府市図書館を使った調べる学習コンクール」(募集期間8月1日(月)～9月30日(金))を、防府市教育委員会と共催しました。応募店集は、小学生27点、中学生9点でした。11月2日(水)の審査結果は、小学生は金賞1点・銀賞1点・銅賞1点、中学生は銀賞1点・銅賞2点で、小学生の金賞1点と銀賞1点は全国コンクールに出展されました。

なお、今年度より、上山満之進翁を顕彰する「上山満之進賞」が新設され、郷土への愛着が感じられる作品として、阿弥陀寺について調べた小学生が受賞しました。

また、テーマの決め方、調べ方、まとめ方等について助言する「チャレンジ!調べる学習」(7月10日(日)、8月6日(土)開催予定)を開催し、18人が参加しました。

さらに、8月1日(月)～9月30日(金)の間、ブラウジングコーナー及び展示ケース横において、ポスターやチラシのほか、全国の入賞作品のレプリカを展示しました。

- ・ 読書感想文教室

7月24日（日）と7月31日（日）、小学校3～6年生を対象に「読書感想文教室」を開催しました。2日間で15人の児童が参加し、ワークシートを使って読書感想文の下書きをしました。

- ・ さんさんおはなし会

親子読書を推進するとともに、家族と一緒に過ごし、家庭の大切さを考えるきっかけとなるよう、毎月第3日曜日の家庭の日に、図書館職員によるおはなし会を開催しました。

- ・ 職場体験・図書館見学等の奨励

職場体験等のインターンシップ、図書館見学等について積極的に受入れをし、子どもたちの図書館への理解促進と利用拡大に努めました。

- ・ 出前講座・出張イベント等の開催

5月23日（月）に「えんしん幼稚園」、11月16日（水）に「子ども家庭支援センター“海北”」に職員が出向き、絵本の読み聞かせを実施しました。

② 子ども読書活動推進のためのボランティア活動を奨励し、その育成を図る図書館

ア ボランティアとの連携・協働業務

6月26日（日）、9月29日（木）、12月14日（水）に開催された「かすが文庫」のおはなし会、6月27日（月）、2月27日（月）に開催された「学校図書ボランティアネット・防府」の研修会、10月26日（水）、2月8日（水）に開催された「おはなしでんしゃ」のおはなし会において、図書館職員によるブックトークや電子図書館体験会を行いました。

（7）障害者や高齢者に優しい図書館

① 障害者や高齢者が、気軽に楽しく利用できる図書館

ア 障害者・高齢者への資料・情報提供サービス業務

行政やボランティア団体等と連携・協力し、点字・音声資料・大活字本等の整備に努めるとともに、郵送貸出・視覚障害者用音声付インターネット設備等のサービスを行いました。

また、今年度より、国立国会図書館の視覚障害者等用データや、当館所蔵のデジタル図書等をインターネットや郵送等で提供する、新たなサービス「ひなぎくネット」を開始しました。

さらに、10月1日（土）、文字の拡大や音声読み上げなどのできる電子書籍を、インターネットを通じて利用できる電子図書館を開設しました。

- ② 視覚障害者や高齢者のための対面朗読、音訳図書製作、郵送貸出などのサービスを積極的に行う図書館

ア 対面朗読、音訳図書製作、郵送貸出等の業務

ボランティアと連携し、対面朗読サービス・音訳図書製作等の推進に努めるとともに、障害者への郵送貸出サービスや「ひなぎくネット」について、周知と利用促進に努めました。

- ③ 障害のある利用者のためのボランティア活動を奨励し、その育成を図る図書館

ア 障害のある利用者のためのボランティア活動支援業務

障害のある利用者のためのボランティア活動を支援し、ボランティアによる施設・設備・資料等の活用促進に努めました。

5 収益事業

チケットの受託販売や、科学館のショップ運営等により、公益目的事業の財源となる収入の確保を図りました（有料駐車場は営業休止）。これらの運営に当たっては、施設利用者への更なるサービス向上につながるよう努めました。

（1）文化施設の管理運営

コロナ禍の中、ホールでの式典、研修会や講演会、その他の施設での展示即売会や会議、研修会など、各施設の公益目的以外の利用についても感染防止対策を取りながら積極的に貸与し、施設の有効利用を図るとともに、地域振興の拠点となるよう努めました。利用者アンケートや市民からの提言などに基づいて、可能な限り各種改善を行い、利用者の立場に立ったサービスが提供できるよう取り組みました。

また、他施設で開催されるイベントのチケットを含めたチケットの受託販売も積極的に行い、お客様の利便性を高めるとともに、収入の確保にも努めました。

（2）有料駐車場の管理運営

営業休止中（イベント時に無料開放）

（3）ミュージアムショップの運営

ミュージアムショップでは、科学を身近に感じる商品や企画展の関連商品を中心に販売し、科学館の魅力向上や利用者の利便性を図るとともに、財源の確保につなげました。

今後も科学館での体験をより豊かにするようなショップの運営に努めてまいります。

Ⅲ 理事会、評議員会

1 理事会

(1) 第1回理事会

開催年月日	令和4年5月12日(木)
開催場所	三友サルビアホール 3階4号室
決議事項	①令和3年度事業報告及び決算について ②規程等の改正について ③令和4年度第1回評議員会の招集について

(2) 第2回理事会

開催年月日	令和5年2月15日(水)
開催場所	三友サルビアホール 3階4号室
決議事項	④令和5年度事業計画書及び収支予算書等について ⑤規程等の改正について ⑥令和4年度第2回評議員会の招集について

2 評議員会

(1) 第1回評議員会

開催年月日	令和4年5月27日(金)
開催場所	三友サルビアホール 3階4号室
決議事項	①令和3年度事業報告及び決算について ②理事の選任について

(2) 第2回評議員会

開催年月日	令和5年2月28日(火)
開催場所	三友サルビアホール 3階4号室
決議事項	③令和5年度事業計画書及び収支予算書等について

事業報告の附属明細書

令和4年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和5年5月

公益財団法人 防府市文化振興財団